

熱であそぼう おうちでトライ!

たいりゅう

「対流 風ぐるま」



<材料> おうちで準備するもの

大きめのガラスのコップ、シャーペンの芯(1本)、のり(またはセロハンテープ)、黒い画用紙、ねんど(少し)(または目玉クリップ(小)1つ)、つまようじ

<作り方> (むずかしさ: やや難)

- 1) 下の型紙(台と風ぐるま)を切り抜く。
台のほうは、黒い画用紙に型をうつす。
- 2) 台(黒い画用紙)ののりしろにのりをつけてくみ立てる。
- 3) 風ぐるまの中心に、へこみをつける(右図)。へこみをつけたら、切り込みをつけ、線にそって折り目をつける。
- 4) 粘土にシャーペンの芯を立てる(軸)。芯は先をとがらすと回りやすい。
または、目玉クリップではさんで立ててもよい。折れやすいので気をつける。
- 5) 軸の上から土台をかぶせるようにして入れる。
- 6) 軸の上に、風ぐるまをのせる。
- 7) 透明な大きなコップを上からかぶせ、日光などの光をあてると、風ぐるまがまわります。



プロペラの型紙の中心をつまようじのとがでいい方で軽くあしつけよう。少しへこみがで"きれい"OK! 紙に穴をあけたいまう、気をつけてやろう。

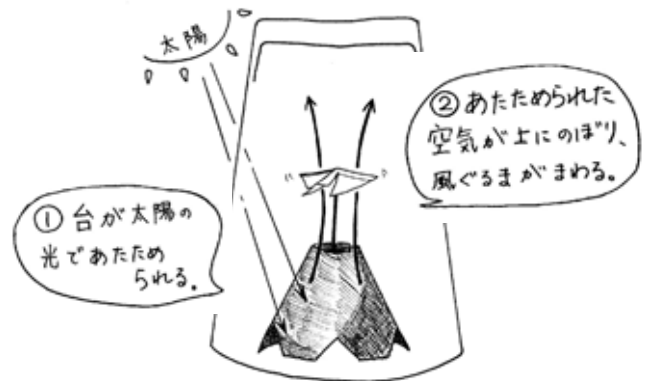


!注意!

- ・ 工作するときや、遊ぶときは、必ずおうちの人といっしょにやろう。
- ・ シャーペンの芯の先をとがらせる時、カッターの扱いに注意しよう。

どうしてまわるのかな?

光には、ものを温めるはたらきがあります。特に黒い色のものは、温まりやすいのです。紙の台が温まると、その近くにある空気も温まります。温まった空気は周囲にある冷たい空気に比べて軽いので、上に上がります。この空気の流れ(対流)によって、風ぐるまがまわっています。



きりとり ———
山おり - - - - -

